

国際化学肥料ニュース（2016年11月）

肥料業界の2016年11月動態

- * ベラルーシ通信社の報道によれば、加里肥料の需要不振と価格下落の影響を受け、1～9月塩化加里輸出量が11%減の404.3万トン、輸出金額が33%減の16億ドルであった。主な輸出先はブラジル（101.2万トン、3.74億ドル）、中国（45.37万トン、1.7億ドル）、インド（44.1万トン、1.92億ドル）。

- * 11月7日インドSTC社は尿素の入札を行った。開札11月16日、船積み12月30日まで、数量が無制限という条件であった。開札の結果、応札数量265万トンであったが、最低応札価格がCFRインド西海岸244.10ドル/トン、東海岸246.66ドル/トン、前回9月13日の応札価格より約40ドル/トンの値上げである。STC社は予想外の高値で今回の購入を見送ることを検討すると報道されている。

- * 11月23日インドSTC社は11月7日行い、16日開札した尿素入札をキャンセルすることを発表した。理由は応札価格が予想価格より大きく超えて、高値で購入することがないということである。内定している約80万トン（イラン産50～60万トン、中国や中東産18～30万トン）をすべて取り消した。このニュースにより24～25日の国際市場における尿素FOB価格が15～20ドル/トンも下落した。

- * 中国国家统计局の最新データによれば、10月の化学肥料生産量が5.3%減の614.18万トン（N、P、K100%換算）、3ヶ月連続の下落である。窒素肥料実生産量が12.8%減の370.73万トン、特に尿素が21.8%減の240.91万トンである。りん酸肥料実生産量が12%増の172.27万トン、加里肥料実生産量が6.21%増の68.6万トンである。
また、中国税関の統計データによれば、10月の化学肥料輸出量224万トン、その内、尿素33万トン、DAP万トン。化学肥料輸入量70万トン、その内塩化加里62万トン、化成肥料8万トン。

- * 中国の窒素肥料生産能力の過剰が進んでいる。11月17日中国窒素肥料工業協会の常務理事会に最新の窒素肥料産業に関する調査報告が公表された。2015年1月～2016年9月30社計38の尿素生産装置が廃棄され、尿素生産能力675万トンが削減された。ほ

かに天然ガスを原料とする 839 万トンの尿素生産装置が休止している。一部のアンモニア合成装置も廃棄され、生産能力 823.6 万トンが削減された。

しかし、同じ時期に新たにアンモニア生産能力 642.6 万トンが増加し、尿素生産能力も 707 万トン増加した。さらに 3 年以内に計 17 の新規プロジェクトが完成し、アンモニア生産能力 523 万トン、尿素生産能力 462 万トンが増える予定である。なお、2016 年 10 月末現在、中国尿素メーカー 123 社、生産能力 7986 万トンで、15~20%の過剰と推定される。

- * エジプトはエジプトポンド安の恩恵を受け、化学肥料の輸出量を大幅増やした。11 月 3 日、エジプト政府は 11 月 3 日、エジプトポンドの為替を完全自由化し、対ドルの為替レートが一挙に 50%も下落した。今年エジプトポンド安の関係で、エジプト産化学肥料の価格競争力が強くなった。1~7 月尿素輸出量が前年同期より約 500%増の 151 万トン、リン鉱石輸出量も 7.5%増の 154 万トン、ほかに重過石と過石の輸出量も増えた。

- * ロシアからの報道によれば、11 月 24 日ベラルーシ BCP 社は中国化工建設総公司 (CNCCC) との間に 2017~2019 年の 3 年間で計 150 万トン塩化加里を供給する覚書を締結した。価格は中国と大手加里メーカーとの年度塩化加里輸入契約に準ずる。ベラルーシ BCP 社は世界第 3 位の加里肥料輸出メーカーで、2015 年の輸出シェアが 19.3%であった。

- * ロシア税関の統計データによれば、ロシア 1~9 月の加里肥料輸出量が昨年同期より 22%減の 730.8 万トン。主な輸出先は中国 211.7 万トン (9%増)、東南アジア 113.1 万トン (20%減)、ヨーロッパ 112.5 万トン (17%減)、南米 149.5 万トン (17%減)。

- * 10 月から国際市場の塩化加里価格が若干上がっている。主な原因は東南アジア諸国、特にマレーシアとインドネシアの塩化加里需要が回復している。11 月末現在、東南アジア向けの塩化加里 (粉) CFR スポット価格 235~240 ドル/トン、10 月中旬より約 5~10 ドル/トンの値上げとなっている。但し、南米の加里肥料需要が低迷で、粒状塩化加里の CFR ブラジル価格 230~240 ドル/トン、10 月と同じである。加里肥料需要の全面的な回復と価格の上昇に時間がかかる。

- * ドイツ K+S 社は Hattorf 鉱山を再開すると発表した。Hattorf 鉱山と付設の塩化加里精製工場の生産能力が 85 万トン/年である。
また、カナダ PotashCorp 社は 2017 年に不採算の 3 つ小型加里鉱山の生産を削減し、その代わりに Rocanville 鉱山の生産量を引き上げる。また、11 月から Lanigan 鉱山の

生産ライン（生産能力 380 万トン／年）を 6 週間の定期点検に入り、Allan 鉱山（生産能力 400 万トン／年）も来年 2 月から 12 週間の定期点検を行う計画である。来年春季の加里肥料供給がタイトになる可能性がある。

大手各社の営業業績

- * カナダの Agrium 社は第 3 四半期の業績を公表した。肥料価格下落の影響を受け、販売数量が増加したが、売上高が逆に減少し、業績が赤字に転落した。7～9 月の肥料の販売数量は窒素肥料 73.9 万トン（2.1 万トン減）、りん酸肥料 47.6 万トン（11.2 万トン増）、加里肥料 27.8 万トン（0.9 万トン増）で、売上高が前年同期より 11%減の 22.45 億ドル、粗利が 18%減の 5.68 億ドル、純利益が赤字で、赤字額 3900 万ドル（前年同期が 9900 万ドルの黒字）であった。
- * イスラエル ICL 社は第 3 四半期の業績を公表した。塩化加里生産量 127 万トン、販売量 140 万トン、売上高 13.83 億ドル（前年同期より 0.3%増）、連結決算では赤字 3.47 億ドルである。赤字の主な原因は、エチオピアの Allana Afar 加里開発プロジェクトと中国雲天化社とのりん酸肥料合弁企業 YPH 社の損失が膨らんでいる。但し、エチオピアの加里開発プロジェクトが 10 月に中止を決定し、中国の YPH 社も 2～3 年後黒字に転ずる見通しで、来年は赤字を解消する計画である。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 11 月 19 日、モロッコとエチオピアはエチオピアの首都アディスベバで合弁化学肥料工場を建設する契約に調印した。当該工場はエチオピア東部の Dire Dawa 市に建設し、生産能力 250 万トン／年、総投資額 25 億ドル、2017 年着工、2022 年完成する予定である。企画、設計と施工はすべてモロッコの OCP 社が担当する。
- * タイからの報道によれば、タイの商務省長官補佐は 11 月 29 日にデンマークの Haldor Topsoe 社はタイに化学肥料工場を建設する意向を表明したと発表した。但し、具体的な計画はタイの天然ガス供給能力、タイの法律と規制を検討してから提示するとのことである。
- * サウジアラビアの Ma'aden 社は Ras Al Khair りん酸工場の再拡張を決定した。この 3 番目のプラントは投資額約 64 億ドル、生産能力 300 万トンりん酸肥料と化成肥料、2023 年末完成する予定である。

また、Wa'ad Al Shamal りん酸工場の建設が終盤に差し掛かり、年内の一部完成し、来年から稼働し始める。2019 年から完全操業となる。当該プロジェクトは Umm Wu'al

りん鉱山から約 13km 離れる Wa'ad Al Shamal 鉱業都市にあり、投資総額 75 億ドル、完成後の生産能力は 300 万トン／年の DAP、MAP と化成肥料である。

- * 11 月 29 日、ドバイの中東 Essel グループ (EGME) はカナダの Gensource Potash グループと合弁会社を作り、共同でカナダ Saskatchewan 州のある加里肥料プロジェクトを進行する覚書に署名した。

その他

- * 今年 4 月、EU が「EU 肥料肥料管理条例」修正案を発表し、加盟各国政府と農家、国民から意見を聴取し、2017～2018 年 EU 議会に通過させ、成立する予定である。

この修正案は現在施行している「EU 肥料肥料管理条例」(2003 年制定)に比べ、有機肥料の基準をさらに厳しくするものである。例えば、下水汚泥、工業廃棄物、浚渫汚泥を原料とする堆肥の禁止、肥料中の重金属許容濃度の引き下げ、有害微生物の不検出または検出値の引き下げ、有機態炭素最低基準の設定などが含まれる。基準を満たさない有機肥料が CE 標識を使用できず、EU 域内に自由に販売できない。

これに対して、有機肥料メーカーと有機栽培農家はこの修正案が廃棄有機資材の有効利用を妨げるとして異議を申し、有機肥料基準を緩くするように要請する。また、りん酸肥料メーカーも肥料中のカドミウム含有基準の引き下げに反対する。

- * 国際肥料工業協会 (IFA) の最新報告書によれば、東南アジアの化学肥料使用量が急速に増加した。耕地ヘクタールあたりの施用量がマレーシアでは 1,570kg、香港では 1,297kg で、一番少ないカンボジアでも 278kg を施用した。一方、2015 年アフリカの耕地ヘクタールあたりの化学肥料平均使用量が 2005 年の 8kg より増加したものの、12kg 未満である。但し、一部のアフリカ国家が化学肥料の使用量が急速増加し、ヘクタールあたりの施用量がエチオピア 24kg、ガーナ 35kg、ケニア 44kg であった。その関係で穀物収穫量が増え、飢饉解消に役立った。

2018 年世界の化学肥料需要量が 7 億トンに達し、ブラジル、中国、インドとアメリカの 4 ヶ国だけでその 55%を消費するとも予測した。

- * カナダ Ag Growth International 社 (AGI) はアメリカの肥料設備メーカー Yargus Manufacturing 社を買収すると発表した。